

パラリンピックから 共生社会について考える



1 教科等

中学校2学年 特別の教科 道徳

2 主題名

パラリンピックから共生社会について考える [B-(9) 相互理解、寛容]

2 ねらい

障害のある人を支援する立場に立って障害のある人の気持ちを考え、自分の意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重することを通して、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、多様性を認め、共に生きようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

本主題は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」という内容項目を受けたものである。

東京2020パラリンピック開催に伴い、障害者スポーツに対する関心が高まる中、選手や選手を支える人たちを取り上げることで、障害のある人たちが、周りの人たちとの関わりの中でどのような経験をし、何を感じてきたのかということを理解し、人と接する上で大切なことに気づき、自分の周りにいる人たち一人一人の個性を認め、互いを理解し、共に生きようとする生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

4 他の教育活動との関連等

- (1) パラリンピックを観て、競技の種類や工夫等について知る。(保健体育科)
- (2) パラリンピックの歴史、意義、選手の思いを知る。(総合的な学習の時間)
- (3) ブラインドウォークを体験する。(総合的な学習の時間)
- (4) パラリンピックサポーターの思いを知り、人との関わりや自分の生き方について考える。

(特別の教科 道徳)【本時】

5 本時と人権教育

- 多様性を認め、共に生きようとする開かれた心と態度を育てる。(価値的・態度的側面)
- ブラインドウォーク体験を踏まえ、ガイドランナーとパラマラソンランナーとの関わり方を学ぶことで、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を育てる。

(技能的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと…★

時	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 ブラインドウォークの感想を紹介する。</p> <p>2 伴走ロープを見て、何に使うものか考える。</p>	<p>・ブラインドウォークは怖かった。</p> <p>・誰かの助けが必要。</p> <p>○これは何の道具でしょう。また何と呼ばれているでしょう。</p>	<p>・自分一人では難しく周りの支えが必要というような感想を提示する。</p> <p>・伴走ロープを見せながら説明をする。</p>
<p>ガイドランナーがパラマソンランナーと関わるときに大切にしていることは何だろう。</p>			
展開	<p>3 視覚に障害のある選手に、必要な支援を考える。</p> <p>4 グループで意見を共有し、全体に発表する。</p> <p>5 パラマソンランナーである道下さんの動画を視聴し、ガイドランナーの気持ちや思いを考え、話し合う。</p>	<p>★視覚に障害のある人がマラソンをする時にはどんな支援が必要だと思いますか。</p> <p>・手をつないで走る。</p> <p>・声をかけて指示をする。</p> <p>・不安にならないように励ます。</p> <p>○お互いの意見をグループで紹介しましょう。</p> <p>◎ガイドランナーの堀内さんはどんな思いで道下さんを支援していたと思いますか。</p> <p>・自分も一緒に金メダルが取りたい。</p> <p>・道下さんの目になりたい。</p> <p>・道下さんの夢を叶えたい。</p> <p>・金メダルをとることは自分の夢になった。</p> <p>○伴走ロープが絆ロープと呼ばれる理由は何だと思えますか。</p>	<p>[ブレンストーミング]</p> <p>・ブラインドウォーク体験を思い出させ、個人で自分の考えを付箋に記入させる。</p> <p>・付箋を支援の方法別に分類し模造紙に張り、話し合うことで支援には様々な方法があることに気付かせる。</p> <p>・ガイドランナーの思いに注目して視聴させる。</p> <p>・伴走ロープが絆ロープと呼ばれていることを確認し、そこに込められた思いを想像させる。</p>

	6 本時の学習を通して、感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。	○今日の道徳の学習で考えたことを通して、周りの人とどんな思いで接していきますか。またどんなことができますか。 ・相手の立場で考える。 ・自分にできることをやっていく。 ・お互いに個性を認め合う。	★生徒の感想や考えを踏まえすべての人が偏見や差別を持たず、必要な支援をしながら、共に生きていくことが大切であることに気付かせる。
終末	振り返り(ワークシート)		・東京パラリンピックのハイライト動画を視聴させる。

【 評価の視点 】

- ・それぞれの個性や立場を尊重し、多様性を認め、共に生きようとする大切さに気付くことができたか。 〈発言・ワークシート〉
- ・他者の意見を聞いて自分との共通点や差異を認め、自分の思いや考えを発言することができたか。 〈ワークシート〉

【ワークシート】

東京オリンピック・パラリンピックを観よう!!
()年()組()番 名前()

・東京オリンピックを観て、感動した場面と、その時感じたことを書いてみましょう。

場面:

感じたこと:

・東京パラリンピックで観た競技の中で、その競技の工夫を書いてみましょう。

① 競技:

工夫:

② 競技:

工夫:

・東京パラリンピック競技をできるだけ書いてみましょう。

・パラリンピックを観て感じたことを書いてみましょう。

「パラリンピックから共生社会について考える」
()組 ()番 名前()

めあて

1. 堀内さんはどんな思いで蓮下さんのサポートをしていたと思いますか。

(自分の考え)

(みんなの考え)

2. これから周りの人とどんな思いで接していきますか。また、どんなことができますか。

【振り返り】

① パラリンピックの歴史や意義を知り、障がいのある人の気持ちに寄り添うことができた。(A ・ B ・ C)

② 自分と他人との違いを個性として認め、共に生きる大切さを感じることができた。(A ・ B ・ C)

③ 他者に対して偏見や差別を持たず、お互いを理解するための言葉かけや行動をしていきたいと思う。(A ・ B ・ C)

※今日の授業で感じたこと、考えたことなど書きましょう。

人権課題 性的少数者

性の多様性から学ぶ



1 教科等

中学校 3 学年 特別の教科 道徳

2 主題名

性の多様性から学ぶ [C-(11) 公正、公平、社会正義]

3 ねらい

性の多様性を理解し、性的マイノリティについて考え、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない誰もが過ごしやすい共生社会を実現しようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

本主題は「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」という内容項目を受けたものである。

近年、性的マイノリティ(LGBT)に対する関心が高まっている。日本においても、パートナーシップ制度を導入する自治体が増えるなど、性的マイノリティへの理解が進んでいるが、偏見や差別が解消されていないのが現状である。性的マイノリティが直面している人権問題や社会問題を取り上げることで、問題解決に向けての課題や今私たちができることは何かに気付かせたい。また、性的マイノリティの立場に立って考えることで、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現のために様々な視点で行動できる生徒の育成を目指したい。

4 他の教育活動との関連など

- (1) 性の多様性についての講演会を聞き、ワークショップ(講師 NPO法人レインボーハート okinawa 理事長 竹内清文氏)を体験する。(総合的な学習の時間)
- (2) 性の多様性について考える。(総合的な学習の時間)
- (3) 性的マイノリティが自分らしく生きられる社会について考える。(特別の教科 道徳)

【本時】

5 本時と人権教育

多様性を認め、共に生きようとする開かれた心と態度を育てる。(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと…★

時	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 性の多様性について学習したことの振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ LGBT、SOGI (性的指向・性自認) の意味について確認する。
	<p>性的マイノリティが自分らしく生きるために大切なことはどんなことだろう。</p>		
展開	<p>2 動画の各場面を見て登場人物の場面ごとの心情の変化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ななが、かすみに告白したシーン。 ・ かすみが LGBT をテーマにした劇をしたいことを部員や教頭先生に伝えるシーンと「あひるの子」の劇のシーン。 ・ ななが、かすみに対して謝るシーン。 	<p>○ななは、かすみに告白したとき、どのような気持ちになったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カミングアウトしてしまった。 ・ 友達関係が崩れてしまう。 ・ 嫌われたかもしれない。 <p>○ななは、かすみが作った「あひるの子」の劇を見て、どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私の気持ちに向き合おうとしている。 ・ みんなに伝えてくれてうれしい。 ・ 終わったらかすみに謝ろう。 <p>○ななは、かすみに対して謝ったとき、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇をしてくれて嬉しかった。 ・ 逃げてごめんなさい。 ・ 向き合ってくれてありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権啓発ショートムービー「りんごの色」を場面ごとに止めて発問する。 ・ 机間指導の中で発表者を決めておくことで、多面的・多角的な考え方を共有できるようにする。 ・ かすみが LGBT の勉強会に参加し、LGBT について学んだことによって、かすみの考えが変化したことを押さえる。 ・ 竹内清文氏 (NPO法人レインボーハートokinawa理事長) の講話やワークショップで出てきた内容を想起させる。
	3 誰もが過ごしやすい学校とはどんな学校か考え、全体で共有する。	<p>◎性的マイノリティが「自分らしく」生きることができ学校や社会にするために、何ができると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な性について正しく理解する。 ・ 相手のことを考えて行動する。 ・ 否定したり、差別したりしない。 ・ 男女共用トイレを作る。 ・ 接し方を変えず人の気持ちを大切に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ジャムボードに自分の意見を入力させ、ワークシートに書かせる。班で意見を共有し、班ごとに発表させることで、多様性を認め、共に生きようとする開かれた心や態度について考えることができるようにする。 ・ なぜそう考えたのか、理由を言いながら、発言させる。 ・ 「自分らしく」生きるためには、多様な性について正しい理解のもと、互いの違いを認め合うことが大切だと捉えさせる。
	4 教師の説話を聞く。		
終末	振り返り(ワークシート)		<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに書いた内容を数人に発表させる。

【 評価の視点 】

- ・それぞれの個性や立場を尊重し、多様性を認め共に生きようとする大切さに気付くことができたか。 〈ワークシート〉
- ・他者の意見を聞いて共通点や差異を認め、自分の思いや考えを発言することができたか。 〈発言・ワークシート〉

*人権啓発ショートムービー「りんごの色」

URL https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00004.html

【ワークシート】

「性的マイノリティが自分らしく生きるためには」

() 組 () 番 名前 ()

めあて

1. ななは、かすみに告白したとき、どのような気持ちになったと思いますか。

2. ななは、かすみの作った「あひるの子」の劇を見てどう思いましたか？

3. ななは、かすみに対して謝った時、どのような気持ちだったと思いますか。

4. 性的マイノリティが「自分らしく」生きることができる学校や社会にするために何ができると思いますか。【ジャムボード】

今日の授業で感じたこと、考えたことなど書きましょう。